

令和8年度第2回中井町学校のあり方検討会会議録

日 時 令和8年8月25日（水） 15：30～
場 所 中井町農村環境改善センター 2階 研修室
出席者 学校のあり方検討会委員（16名）、小玉学校教育班長、安藤指導主事
傍聴人 なし

1 開会 (事務局)

2 会長あいさつ (会長)

5月21日に第1回の学校のあり方検討会を実施し、中井町の学校教育の現状についての説明から、皆様と意見交換させていただいた。

第1回から今日までの間、事務局では、7月6日（月）に子どもたちを毎日直接指導されている先生方を対象とした先生方のワークショップを行い、「中井町の学校の未来予想図Ⅲ」ということで、どんな学校で、どのように子どもを伸ばしたいかというテーマのもと、校種を越えて意見交換をしていただいた。各グループでの意見交換をまとめたものを、本日、皆様に今後の参考にしていただくため、机上に配布させていただいた。また、その時の様子を記事にしたわかくさも参考にお配りした。個人的な感想になるが、どのグループも子どもたちに対するぬくもり、あたたかさを感じる内容だったと感じた。

6月22日（月）から23日（火）には、教育委員会が中井町の3校とほぼ同じ規模の小中一貫校と義務教育学校を視察した。学校の状況や地域の状況なども含め、それぞれの学校の特色や今の教育の成果や課題について、実際に学校を拝見しながら話を伺うことができた。視察の状況については、今後、どこかでお話しできればと考えている。

本日は、これまでのワークショップや懇談会等で、子どもたちのよいところや未来への希望を中心に議論を進めてきたが、前回、皆様に宿題をお願いした中井町の教育の課題や子どもたちの伸ばしたい力を中心に皆様と議論を深め、中井町のこれからの教育について迫れればと考えている。

また、第1回検討会終了の際、会議録等のホームページへの掲載と、学校の保護者あてにすぐるで配信する旨伝えたが、すぐるでの配信を失念しており申し訳なかった。第2回終了後はすぐるでの配信もしていく。

これから、担当より今後の進め方等について説明があるが、いろいろな視点から議論が深まるようお願いし、あいさつとさせていただく。

3 議 題

- (1) 町の学校教育の課題について（ワークショップ）
事務局の進行によりワークショップ実施

各グループの発表

(A グループ)

一番大事なのは学習する環境。ソフトウェアが人（中身）、ハードウェアが環境（器）、両方大事。それ以外にも外国籍の子どもたちに対する支援や教育ビジョンの実効性が大事。

その中でもソフトウェア（中身）とハードウェア（器）をつなぐものが大切だと考えた。これらをつなぐのは ICT や地域の人。また、子どもの成功体験を幼小中と縦につなぐ。保護者、先生などもつなぐことが大事、これらをまとめて幼保小中の一貫した教育パッケージと名付けて大切なものとした。また、つなぐものの大切さ、この2つを大切なものとした。

(B グループ)

中井の良さである自然から学ぶこと、家庭、地域のつながりがとても大事。自分見つけの体験の中では、高校に上がった際の環境の変化、これからの将来を見据えたこと、自分自身の能力開発など子どもたちにとっては大事。中井の子どもたちは単級ということもあって人間関係が割と固定化されており、そこからくる問題が多い。学年によってカラーが決まっていたり、相手のこと、仲間関係を思う優しさのあまり、自分を引っ込めてしまったりするところがある。そういったところからも何かあった時に逃げ場が見つけにくいのではないかとということが課題。

ではどうしたらよいか、子どもの声にしっかりと向き合う。社会参加や色々な体験をさせ、人の役に立つことで自己肯定感が生まれる。また、家庭・地域・学校のつながりの例としては、地域の直売所の 20 周年記念として中学生が直売所の中に絵を描いた。生徒はとても喜んで描き、保護者もとても応援してくれた。そういった町の資源を活用した体験を目指したい。

(C グループ)

子どもの数が少なくなっていることから、昔のように競争することが少なくなったり、人間関係の幅が広がらなかったり、知らない人とのコミュニケーションをとることが少ないということから、経験不足が挙げられる。失敗をさせてその中から目標を立てさせるそういったことが大事。二つ目に、地域の協力を得て色々な経験をさせる場をつくることが大事。外で遊んでいる子を見かけることが少なく、家の中で、一人で過ごす子どもが多くなった。経験や体験する場を子どもたちにつくり、企画や運営は子どもたちが行うことで力をつけることが大事。

次に学び方について、学習については、昔ながらの紙を使った学習と、その知識等はインターネットを使用してつけるといったそれぞれのよさを生かした学習が必要。

(D グループ)

課題として、少人数のメリット・デメリット、他者との関係の構築、AI・電子機器に依存、校舎の老朽化、特色のある授業が必要という5つを挙げた。

一つ目は、少人数であることのデメリットが挙げられたが、メリットもある。中井の子どもは他者を受け入れる受容性が高く、外国籍の子どもも上手に受け入れている。町の特色ある授業が必要と考えての提案として、英語教育を柱とした場合、外国籍の子どもたちが生きる授業、外国籍の児童・生徒とのコミュニケーションを取り入れてはどうか。

また、少人数というデメリットを克服するためには大人数にすることが必要だが、今できることとして、大人数で学べる場の設定をすること、例えば中村小と井ノ口小の交流や小・中学校の交流を増やすこと、外国人や地域との交流など、そういった場の設定をすることで相互理解が進む。そういった場の設定を大人がすることが大切。またDグループのキーワードとして、少人数によるメリット・デメリットというものがあり、デメリットをメリットに生かしていけるような教育が展開できないかと考えた。また校舎の老朽化はハード面となるが、やはり子どもたちのために良い環境を整えてあげたいということで挙げた。

(事務局)

今回は教育に係る課題・子どもたちの伸ばしたいところという視点から話し合いを進めていただいた。各グループで大切だと思うことを2～3つ出していただいた。グループによって表現や着眼点は違うが、いくつか共通する点があった。一つ目は人間関係が大きなキーワードになっていた。少子化となっており集団の規模を心配する意見が多いものの、現在、町では豊かな異学年交流やその中での学びも展開している。学校に来る意味とは、そういったところにあるのではないかと感じた。

二つ目は、成功体験、失敗体験の必要性が多かった。AIやネットの中の借り物ではない、自分自身の体験を大切にしてもらいたいということだったかと思う。そのためにも体験する場として、地域というキーワードが多かったが、子どもたちが実際に生活する家庭や地域に、もっと学校を開いていくことが求められていると感じた。

三つ目に、子どもたちが自分たちで場をつくる、子どもたちにゆだねるという意見も重要と感じた。子どもたちが社会に出て、私たちと共に社会をつくっていくメンバーとなった時に、自分たちにもやればできるという経験を学校でしていないと、共に社会をつくっていくのは難しい。だからこそこれからの社会の担い手をつくるという意味では、子どもたちを信じて子どもたちに任せるということが大切と感じた。

以上、事務局での簡単なまとめとする。これまでのワークショップを振り返ると、中井の子どもたちのよさを視点に話し合いをしてきた。今回は課題面からワークショップを進めた。どのグループも子どもたちにどのような大人になってほしいか、そのために学校や地域でどのような経験をしてほしいのかを幅広く考えていただけた。今日いただいた意見を皆さんで共有することで中井の教育や子どもたちの未来につながっていくような時間になったと思う。それぞれの立場からいろいろな意見を出していただき感謝する。

(2) 次回の進め方について

事務局より配布してある封筒内の資料について、説明を行った。

(事務局)

資料は、昨年度実施した児童・生徒が取り組んだワークショップをまとめたもの、昨年度夏に行った教育懇談会をまとめたもの、今年7月に行った先生方のワークショップをまとめたものになる。

封筒の中の資料は以上となるが、今確認した封筒内の資料、さらに、前回参考にお配りした学校運営協議会での熟議の資料も含め、これまでのワークショップ等の意見をまとめた資料となる。

これらは、未来の学校はこんな学校がいいなという子どもたちの意見や、大人の教育懇談会、先生のワークショップでは、現在の子どもたちのよいところや、これから子どもたちをどのように伸ばしたいかといったプラスの意見を集めてまとめたものになる。

また、本日のワークショップでは、学校教育の課題ということで、これまでのプラス面とは反対のアプローチでご意見をいただいた。

次回は、これらすべての意見を踏まえたうえで、学校教育の課題解消や中井町の子どもたちのよさを伸ばしていくために、これから中井の学校ではどのような教育が望ましいのか。また、どのような教育が大切なのか、という点を更に深めていきたいと考えているが、いかがか。

本日説明した資料のほか、以前配布した学校運営協議会の熟議をまとめたものや、なかい教育ビジョンも参考にして、次回、どのような教育が望ましいかということについて、それぞれの意見を持ち寄り、議論を重ねていきたい。

なお、本日のワークショップでの意見等については、事務局である程度まとめて提示する。

(3) その他

(事務局)

広報紙「We are challengers」について

教育委員会定例会の中で、この検討会の進捗状況を回覧などでも周知してはどうかという意見が上がった。SNSやホームページに掲載はしているが、高齢者には回覧板などの方がよい。タイトルは教育ビジョンの表紙と同じ「We are challengers」とした。これから皆で大きなプロジェクトを進めていくので頑張ってチャレンジしていこうという思い。検討会後の報告ということで年4回の発行を予定している。

(事務局)

次回は、11月27日（金）を予定していたが、神奈川県市町村教育委員会連合会主催の予定が被ってしまい、教育委員と事務局が毎年出席しているものとなるので、11月30日に変更したい。

次回開催は、11月30日（月）15：30で予定をお願いします。

4 閉会

(副会長)

本日のワークショップでは、活発な意見交換により、学校教育の多くの課題が挙がった。次回の検討会では、これまで寄せられたご意見も踏まえて、中井町の子どもたちにとって、どのような教育が望ましいかということについて考え、次回も活発な意見交換ができればと思っている